

登壇者略歴（あいうえお順、敬称略）

石井 剛（いしい つよし）

東京大学大学院総合文化研究科教授、東京大学東アジア藝文書院副院長
中国近代の哲学・思想史。著書に『戴震と中国近代哲学 漢学から哲学へ』、
『斉物的哲学 章太炎与中国現代思想的東亜経験』（中国語）。編著に『ことばを紡ぐための哲学』（中島隆博との共編著）ほか。訳著に汪暉『近代中国思想の生成』ほか。

石川 洋行（いしかわ ひろゆき）

八洲学園大学非常勤講師

研究テーマは消費社会と言語。愛知県立刈谷高校、東京大学教養学部・同大学院を経て、現在専門は理論社会学、フランス社会学史。

共著に『消費と労働の文化社会学』（ナカニシヤ出版, 2023年）、主論文に「モースにおける競覇型贈与の社会学史的検討」（『社会学史研究』41号, 2019年）、「権力の不快なねじれ：「陰謀論」論序説」（『情況』2021年秋号）、「原発事故・戦争・広告支配：ポール・ヴィリリオと《消費社会の帝国》」（『メディウム』3号, 2022年）などがある。ピアニストとしても活動し、2018年アルベニス「イベリア」第1巻およびラフマニノフ・ソナタ第2番を中心とする演奏会を開催。2022年アンサンブル・スピラーレとシューマン・フォーレのピアノ五重奏曲を共演している。

陰山 大輔（かげやま だいすけ）

（国法）農業・食品産業技術総合研究機構 生物機能利用研究部門 昆虫利用技術研究領域 昆虫制御技術グループ上級研究員

東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了。博士（農学）。ドイツ Lübeck 医科大学客員研究員、東京大学総合文化研究科 COE 特任研究員（産業技術総合研究所）を経て、農業生物資源研究所に入所。任期付研究員、主任研究員を経て、2016年より現職。共生微生物が昆虫の生殖システムに与える影響やそのメカニズムを研究している。主な著書『消えるオス-昆虫の性をあやつる微生物の戦略』（化学同人）

千葉 聡（ちば さとし）

1991年3月 東京大学大学院理学系研究科博士課程修了

1991年4月 静岡大学理学部生物地球環境科学科助手

2000年4月 東北大学大学院生命科学研究科助教授

2013年4月 東北大学東北アジア研究センター教授
東北大学大学院生命科学研究科教授（兼務）

松本 直子（まつもと なおこ）

岡山大学文明動態学研究所教授

博士（文学）。専門は考古学（認知考古学・ジェンダー考古学）。九州大学大学院博士課程修了。1999年より岡山大学に勤務。2021年に設置された岡山大学文明動態学研究所の所長を務める。著書に『認知考古学の理論と実践的研究』九州大学出版会（2000）、『縄文のムラと社会』岩波書店（2005）、共

編著に『認知考古学とは何か』青木書店（2003）、『心とアートの人類史』雄山閣（2022）ほか。

森中 定治（もりなか さだはる）

1949年、三重県四日市生。生物学者（農学博士）。日本生物地理学会会長、綾瀬川を愛する会代表。

趣味：声楽（テノール）、定年後始め2019年、ウィーン・オペレッタコンクール愛好家シニア第1位、2020年東京国際声楽コンクール愛好家シニア第2位、2021年第一回ボイスリーグ戦ケン・カタヤマ賞、2022年第1回さいたま国際音楽コンクール一般の部埼玉県知事賞。民間企業に勤めるも、ライフワークの生物学を生かし、チョウを材料とした分子生物学研究にて、2003年名古屋大学で博士号取得。2003年より日本生物地理学会会長。学会と一般社会をつなぐ試みとして市民シンポジウム「次世代にどのような社会を贈るのか？」を継続して企画実施、人間とは何か、人間社会のあり方について生物学と哲学が深く結びつき、人間の行動（生き様）の原点をなすことを学んできた。単著に『プルトニウム消滅！脱原発の新思考』展望社（2012）。『プルトニウムを解毒し脱原発・脱核兵器への道を切り拓く「生物学」的思考法』電子書籍・22世紀アート（2022）。

共著に『埼玉蝶の世界』埼玉新聞社（1984）、『チョウの生物学』東京大学出版会（2005）、『現代を生きる安藤昌益』お茶の水書房（2013）、『熱帯アジアのチョウ』北隆館（2015）、『ふしぎのお話365』誠文堂新光社（2015）他。

山極 壽一（やまぎわ じゅいち）

総合地球環境学研究所 所長

1952年東京都生まれ。京都大学理学部卒、同大学院理学研究科博士後期課程単位取得退学。理学博士。ルワンダ共和国カリソケ研究センター客員研究員、日本モンキーセンター研究員、京都大学霊長類研究所助手、京都大学大学院理学研究科助教授、同教授、同研究科長・理学部長を経て、2020年まで第26代京都大学総長。人類進化論専攻。屋久島で野生ニホンザル、アフリカ各地で野生ゴリラの社会生態学的研究に従事。日本霊長類学会会長、国際霊長類学会会長、日本学術会議会長、総合科学技術・イノベーション会議議員を歴任。現在、総合地球環境学研究所 所長、京都市動物園名誉園長、2025年国際博覧会（大阪・関西万博）シニアアドバイザーを務める。南方熊楠賞、アカデミア賞受賞。著書に『人生で大事なことはみんなゴリラから教わった』（2020年、家の光協会）、『スマホを捨てたい子どもたち—野生に学ぶ「未知の時代」の生き方』（2020年、ポプラ新書）、『京大というジャングルでゴリラ学者が考えたこと』（2021年、朝日新書）、『猿声人語』（2022年、青土社）など多数。